

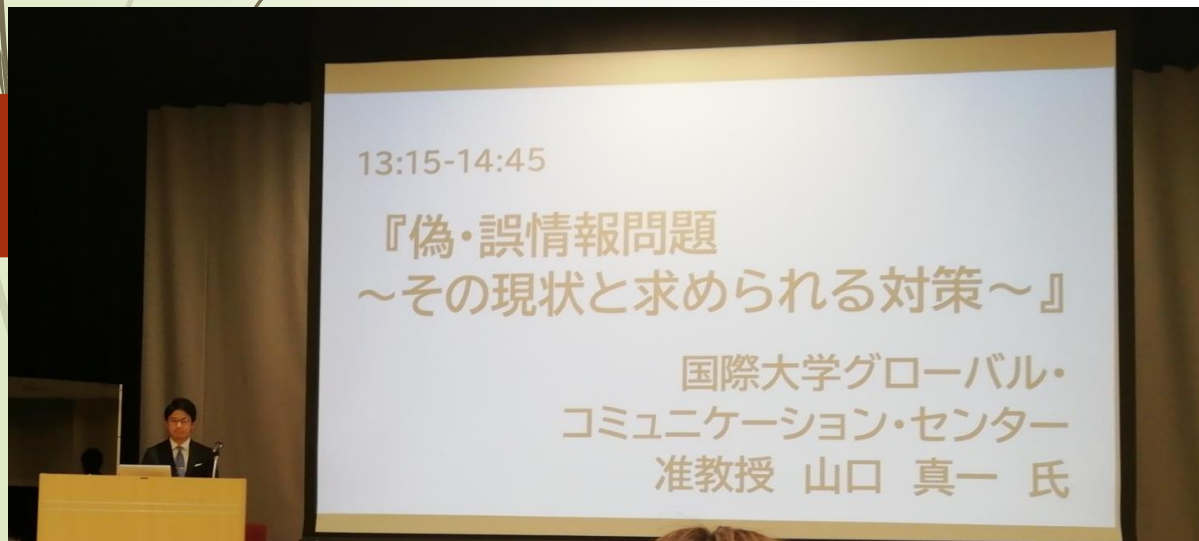
研 修 報 告

令和 7 年度

「第 1 回 市町村長等・議会議員特別セミナー」

日時：令和 7 年 4 月 21・22 日

会場：全国市町村国際文化研修所



今回の研修趣旨

テーマ

高森町の現状に目を向ける一助とするため、「まちづくり」を柱に地域を見つめ直すとともに、今後の地域行政に求められる役割について考える。

研修の内容

- ➡ 第1講座 4月21日（月） 13：15～14：45

演題「偽・誤情報問題 ～その現状と求められる対策～」

- ➡ 第2講座 15：05～16：35

演題「持続可能な地方行政の在り方」

- ➡ 第3講座 4月22日（火） 9：00～10：30

演題「おにぎりから世界へ、次世代へ～地域資源の広げ方～」

- ➡ 第4講座 10：50～12：20

演題「地域の歴史・文化資源を活かしたまちづくり

～しあわせ実感都市瀬戸内市の取組～」

「偽・誤情報問題」

～その現状と求められる対策～

■ 講師

■ 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

准教授 山口 真一 氏

- ・ 専門は計量経済学、社会情報学
- ・ NHKや日本経済新聞などにも多数出演・掲載
- ・ 日本リスクコミュニケーション協会理事等
- ・ 内閣府「AI戦略会議」など政府有識者会議の委員

人類総メディア時代の到来

- SNSの普及は非対面・対多数のコミュニケーションを可能とし、誰もが世界に発信可能
- 情報の自由な流通が、経済・社会システムを大きく変えた
- ネットのクチコミは高い経済効果を持つ

S N S と選挙①

- SNS と選挙が注目された 2024 年
(兵庫県の齋藤知事、都知事選の石丸候補)
- 広告収入目的で齋藤氏関連の動画を投稿
- 「正義と悪」のような対立構図や、
怒り・正義などは拡散しやすい
- インフルエンサーが選挙結果を左右する

S N S と選挙②

- 総メディア時代で、情報収集のチャンネルが増え政治家もそれを利用するのは自然である
- SNSのメリットは、政治への関心を高め、裾野を広げたこと
- フェイクだけでなく、真偽不明な情報も拡散
- これによる「言論封殺」は今後の課題となりうる



猛威を振るうフェイク情報

- ウクライナ戦争でのフェイクが平和を脅かす
- 日本でも「災害時・新型コロナ関連・政治」など、多くのフェイク情報が拡散
- フェイク情報と同時にヘイト情報も課題
- 日本のフェイク情報に対する「耐性」は低い

フェイク情報の実態①

- 多くの人々がフェイク情報を信じる日本、若者だけではなくすべての年代で同じ傾向
- 「家族・友人・知人などとの会話で情報を共有」が最も多い。これが「拡散」に繋がる
- メディア情報リテラシーの重要性
- 判断思考力が高い人ほど、フェイク情報を拡散しづらい傾向にある

フェイク情報の実態②

- 「ニセ・誤情報」には、誰かに伝えたい要素、感情に訴える要素があるため共感・拡散されやすい
- 根拠のない情報が、選挙に影響する可能性がある
- 選挙では、弱い支持をしている人ほどフェイク情報によって支持を下げやすい



生成 A I と with フェイク2.0時代

- 「生成 A I の活用」は社会人に欠かせないものとして総務省が「デジタルスキル標準」に入れた
- 生成 A I の最大の懸念はディープフェイクである
- 現在は A I による偽動画・偽画像よりも、過去の映像を使ったフェイク事例が多い



withフェイク2.0時代 の社会的対処

- 過剰な規制は表現規制につながる
- 政府に対する「正当な批判」が、「誹謗中傷やフェイク情報」とみなされ可能性がある
- 選挙期間はSNSの収益化規制も一案
- 偽情報対抗技術の開発とその大衆化や連携が求められる



withフェイク2.0時代を どう生きるか①

- ➡ 「自分も騙される」ことを知る
- ➡ 拡散したい時だけでも
 - 「情報源はあるか」「その分野の専門家の発信か」「他ではどう報じられているか?」「その画像は本物か?」
 - などの情報検証行動をとる



withフェイク2.0時代を どう生きるか②

- 「知り合いだからと信じてはいないか」「表やグラフは正しいか」「その情報で誰が得をするか」「損をするか」を考える
- 「拡散」によって社会に迷惑をかけ、責任を問われることもある
- 分からなかったら拡散しない

政治家のSNS活用

- ➡ ① 目的とターゲット層を明確にする
- ➡ ② 批判に終始するのではなく、政策と人物像を分かりやすく伝える
- ➡ ③ 継続的な発信を行う
- ➡ ④ 「慎重な言葉選び」
「一般市民への反論や否定は避ける」 など

受講後の感想

■会場参加者 155名、オンライン50名

市長・町長・副市長・議員・事務局長

■長野県からは、9名の参加

長野市1、岡谷市2、安曇野市4、木祖村1

■「90分」が短く感じた。

■内容が「研修趣旨」と少し違っていたか